

看 護

1 看護科の学習指導の改善

(1) 学習指導の改善の視点

資格取得との関係を重視し、次の点に考慮して学習指導を行う。

ア 基礎・基本の確実な定着を図る指導

将来のスペシャリストとして、安全で確実な看護を提供することができるように、専門的な基礎的・基本的な知識や技術を確実に身に付けさせることが大切である。

イ 自ら判断し、行動できる力の育成を重視した指導

看護は、症状や年齢の異なった様々な対象者一人一人に的確に実施しなければならないことから、問題解決的な学習を重視し、自ら考え創意工夫しながら、適切に援助できる能力を育成することが必要である。

ウ 望ましい看護観や職業観の育成を重視した指導

人間尊重の精神と職業倫理に根ざした看護を行うためには、常によりよい看護を目指す態度を育成することが必要である。

(2) 効果的な学習指導

目標・生徒・教材・指導の学習指導における四つの要素をおさえて充実した学習を展開し、学習目標を達成することが大切である。

ア 目標の設定

職業資格取得との関連を考慮し、目標が確実に達成できるようにする。

イ 生徒の実態の把握

興味・関心やレディネス等を把握し、生徒の実態に応じた指導をする。

ウ 教材の効果的活用

教材は、学習内容そのものであり、各科目・領域の目標を実現するための素材として、生徒の学習意欲を喚起し、能力や知識を身に付けさせる材料である。主たる教材である教科書を有効に活用し、学習効果を高めるために、補助教材（教科書以外の図書教材・視聴覚教材・実物教材・コンピュータソフト教材等）も適宜使用することが大切である。医療の高度化や多様化に対応するために、適切な教材を選択し、その内容を精選することが必要である。

エ 指導方法の工夫

生徒の実態に応じて、科目の目標を達成するために学習形態や教材の提示等を工夫して学習効果を上げるようにする。

2 評価の工夫

(1) 評価の基本的な考え方

ア 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）を重視する。

イ 観点別学習状況の評価を基本として、学習の到達度を適切に評価する。

ウ 評価方法については評価の視点を具体的に定める。

- エ 個人内評価を重視する。
- オ 指導の改善に生かす評価を工夫する。

(2) 評価の方法

各科目の目標や学習活動、生徒の状況に応じて、以下の表からの的確に評価できる方法を選択する。

方法	観点	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技能	知識・理解
①観察法 (行動、発言など)		◎	○	○	△
②作品法 (ノート、記録物、作文など)		◎	○	◎	△
③自己評価法・相互評価法 (自己評価票、自由記述など)		◎	○	○	○
④テスト法 (ペーパーテストなど)		△	○	△	◎

◎最も適した方法 ○やや適した方法 △あまり適さない方法

- ア 観察法は、学習評価の基本となるものであり、客観的な洞察力を持って観察する。
- イ 作品法は、生徒の学習のあとを示す各種の作品を用い、出来栄だけでなく過程も重視する。
- ウ 自己評価については、生徒の「関心・意欲・態度」のような情動面の評価に関する資料が得られるが、客観性の乏しい評価になる恐れもあるので、教師からの評価や相互評価を組み合わせ活用する。
- エ テスト法におけるペーパーテストは、知識・理解や思考等の評価に適する方法であるが、評価の観点を明確にして問題を作成することにより、幅広く活用できる。

(3) 評価の改善工夫の視点

- ア 指導目標と評価の観点の明確化
科目の特徴を踏まえ、指導目標の達成度を図れる評価方法を工夫する。
- イ 指導の改善に生かす評価の工夫
看護は様々な対象者に対し、的確な方法で援助することが求められている。そのためには、高度な知識と技術が要求されるので、指導と評価の一体化を図り、常に指導の改善を図ることが大切である。
- ウ 意欲を高めるための評価の工夫
看護の専門職業人として、自ら判断し行動できる力を育てるためには、生徒の実態を的確にとらえ、生徒の意欲や向上心を高める指導が必要である。そのためには、生徒の学習状況を的確に把握できる評価の在り方を工夫することが大切である。

3 指導案

単元 「日常生活と看護」

指導段階	指導項目	指導内容	評価の観点			
			関心 意欲 態度	思考 判断	表現 技能	知識 理解
導入	日常生活の理解 日常生活の意義	・ 基本的欲求に関心を持ち、日常生活行動は人間の基本的欲求に基づいていることを理解させる。	○			○
展開	食 事 食事の意義	・ 食事に影響を及ぼす心身の状態や環境条件等について理解させる。	○			○
	食事に影響を及ぼす因子	・ 食事に影響を及ぼす因子について理解させる。				○
	食事の援助と看護者の役割	・ 安全と安楽に配慮し、患者の状態に応じた食事援助を行うための知識と技術を習得させる。		○	○	○
	排 泄 排泄の生理と習慣	・ 排泄に影響を及ぼす因子について理解させる。	○			○
	排泄の援助と看護者の役割	・ 患者のプライバシーや羞恥心への配慮を理解させる。		○		○
	排泄障害と看護	・ 排泄障害について基礎的な知識と技術を修得させる。			○	○
	浣腸と導尿	・ 障害の程度に応じた援助についての基礎的な知識と技術を修得させる。			○	○
	姿勢・体位と運動 姿勢・体位と運動の生体に及ぼす影響	・ 姿勢、体位と運動が健康に及ぼす影響について理解させる。	○	○		○
	患者の姿勢と運動における看護者の役割	・ 疾病・障害や治療により安静を強いられる患者の心身の苦痛や障害について理解させる。				○
	体位変換と移動	・ ボディメカニクスの原理に基づいた床上における安楽な体位と良肢位の保持、体位変換、移動と移送、床上運動についての知識と技術を習得させる。			○	○
	睡 眠 ・ 休 息 睡眠・休息の生体に及ぼす影響	・ 睡眠と休息の意義、睡眠の生理とリズム、健康を保つための睡眠と活動のバランス、睡眠に影響を及ぼす心身の状態や環境因子、睡眠の習慣について理解させる。	○			○
	患者の睡眠・休息の意味と看護者の役割	・ 不眠への対応や安静を保つための援助に関する知識と技術を習得させる。			○	○
	身 体 の 清 潔 身体の清潔と健康	・ 身体の清潔と健康との関連や、清潔の意義と清潔保持の必要性を理解させる。	○	○		○
	身体の清潔と援助	・ 皮膚・毛髪や口腔等の清潔の援助を行うための知識と技術を習得させる。			○	○
	衣 生 活 衣生活の意義	・ 衣生活の意義及び衣服と健康との関わりについて理解させる。	○			○
	患者の衣生活への援助	・ 病人の寝衣の条件及び寝衣交換の必要性を理解させる。				○
寝衣交換	・ 患者の状態に応じた寝衣の着脱方法に関する知識と技術を習得させる。			○	○	
病床環境の調整 病床環境と患者に及ぼす影響	・ 人間の健康にとって望ましい環境条件について学習させ、環境調整が患者の健康回復に及ぼす影響を理解させる。	○			○	
患者を取り巻く人々	・ 患者を取り巻く人々と患者との人間関係の調整について理解させる。				○	
環境調整における看護者の役割 病床環境の整え方	・ 病床の作り方及び患者の状況に応じて病床環境を整えるための知識と技術を習得させる。			○	○	
整理	日常生活の理解 患者にとっての日常生活の意義と看護の役割	・ 患者の状態に応じた日常生活援助の大切さを理解させる。	○			○

4 質疑応答

問1 看護師としての職業倫理を育成するために、どのように指導するか。

よりよい看護を行うためには、人間尊重の精神と職業倫理に根ざした学習が重要であることから、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正により、准看護師課程では、専門基礎科目の中で「看護と倫理」として1単位、新学習指導要領の改訂では、「看護職とその倫理」として基礎看護の単元「看護の意義と役割」で学習させることになった。

指導計画の作成に当たっては、科目の目標が達成できるよう学習時間を確保するとともに、具体的な事例等を用い、他の教科や看護臨床実習との関連を図る。また、実際の指導場面では、生徒に思考力、判断力、表現力などを身に付けさせるように、学習展開することが大切である。

問2 普通科目「保健」と母子看護での性に関する指導内容の違いは何か。

普通科目「保健」では、内容「生涯を通じる健康」において、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることを目標として、思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康、異性を尊重する態度や性に関する情報等への対処、適切な意志決定や行動選択の必要性について扱う。一方、「母子看護」では、人間の性の概念と意義について、母子の健康の観点から人間の性の特徴を理解させることを目標に、思春期のセクシュアリティの発達と関連付け、性行動の責任ある選択や的確に判断する能力が育成されるよう指導する。

問3 観点別評価の手順は、どのようにしたらよいか。

評価の観点は、教科や科目の目標から設定されるものであり、右図の手順で行う。

- ① 学習指導要領を理解し、教科の目標と内容を確認する。
- ② 単元の観点別指導目標を設定する。
- ③ 評価方法や評価場面を検討し、指導計画に入れる。
- ④ 評価資料を収集しておく。
- ⑤・⑥ 指導目標の達成状況を判断し、指導方法や計画等を改善する。
- ⑦ 年間指導計画や評価基準を検討し、改善する。

